

講義名 **こどもの・自らのがんを、子どもにどう伝えるべきか？
—CLS(チャイルドライフスペシャリスト)の役割を探る—**

期日 **平成27年10月2日(金) 18:00~19:40**

主担当大学 岩手医科大学 外科学講座 講師 柏葉 匡寛
主担当教員

本学会場 **島根大学医学部附属病院 みらい棟4階ギャラクシー(TV会議受信)**

ICT接続予定大学 順天堂大学・島根大学・鳥取大学・東京理科大学・明治薬科大学・立教大学

ゲストスピーカー 聖路加国際病院 チャイルドライフスペシャリスト 三浦 絵莉子 先生

講義内容

【背景】がんが日本人死亡原因の1位となったこと、また治療成績の向上により、がんを発症した後も通常に近い生活を送ることが可能な方が増えている。一方、家族ががん告知を受けた瞬間から本人はもとより家族の日常生活のあり方にも影響を及ぼし、個々にも様々な葛藤を生む。ましてそれが社会的に、生物学的に弱者である未成年だった場合、精神的社会的影響の大きさが、その後の成長、生活にも影響を与えうる。また、両親の2人に1人近くがんになる現代、親ががんを発症した場合、子どもへの伝え方は、伝える親にも受け入れる子どもにも精神的負担を伴う重要な瞬間であり、その後の療養にも影響を与え得る。CLS(Child Life Specialist)は、医療環境にある子どもや家族に、心理社会的支援を提供する専門職であり、子どもや家族が抱えうる精神的負担を軽減し、主体的に医療体験に臨めるようサポートするが、認定を受けたCLSは未だ少なく充足率は十分でない。

【目的】①CLSの活動を紹介し、臨床におけるニーズを探索する。

②実際の小児がんの現場でがん告知がどのようなプロセスがとられているのかを共有する。

③親のがん発症を子どもに伝えるべき場面で何が必要か、親のがん発症後のより良い家族生活のための方策を考える。

【プログラム】

① ご挨拶 腫瘍内科学科 教授 伊藤 薫樹 先生

② 講演: 聖路加国際病院 こども医療支援室CLS 三浦絵莉子 先生
「CLSとは?実際の活動を通し、その重要性を知る」(40分)

座長: 外科学講座 講師 柏葉 匡寛 先生

③ 質疑応答(10分)

④ パネルディスカッション (40分)ファシリテーター 伊藤薫樹先生
柏葉匡寛先生

パネリスト 聖路加病院 三浦 絵莉子先生
岩手医大 小児科 遠藤 幹也先生
同 看護部(乳癌看護認定看護師) 三浦 一穂先生
乳がん経験者

進行

1) 遠藤先生から子供へのがん告知の現状を講演(8分)

2) 三浦絵莉子先生からの介入提案(CLSが居たらどう活動できるか?)(3分)

3) 三浦看護師から患者支援の現状講演(8分)

3) 患者さんからご自分の経験のお話し(5分)

4) 三浦絵莉子先生からの介入提案(CLSが居たらどう活動できるか?)(3分)

5) ディスカッション: こどもをめぐるがん告知とCLS現状での問題点、未来像(13分)

⑤ 総括 伊藤薫樹先生(5分)

博士課程選択科目: 臨床腫瘍学V (32)、臨床腫瘍学VI (33)、地域がん治療学 (37-1)、
がん医療社会学 (37-3)、臓器病態学III (65)、薬物動態学 I (70)、感染症学 I (83)

【連絡先】

島根大学医学部がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」

事務室電話: 0853-20-2576 FAX: 0853-20-2580